

『したたかに甘い感傷』

著：坂井朱生

ill：旭炬

（——そう、か。それで……）

一つわかれば、次々ともつれた糸がほどけていく。ときどき土日を留守にしていたのはあの男に会っていたからかと、ようやく得心した。

そして、もう一つ。悠貴が、英実と弘明が会うのに複雑そうな表情を浮かべていた理由も、だ。

「じゃあ今まで津曲さん、ってああややこしいな、こっちの大学にいるほうだけど、あの人が俺にいろいろしてくれたのも、そのせいなんだね」

英実の機嫌をとりたかったのも、妙に優しくしてくれたのも。細かく気を碎いてくれたのはすべて、このためだったのだ。

英実の言葉に、一瞬、悠貴は押しだまった。

「それは違う」

「もう嘘つかなくていいよ」

口籠もったのが、なによりの証拠だ。きっと弘明は、悠貴とあの男のことが知れて、それで英実が反対したらと慮っていたのだろう。彼が二人のつきあいをどう考えているのだから知らないが、英実の世話をすることで、万一バレたときにおかしな行動をとらないようにとでも考えていたのか。

「莫迦だね、悠貴。最初から話してくれてたらよかったのに。わざわざ、津曲さんにあれこれしてもらわなくても、反対なんかしないよ。それにもし反対だったとしても、親父たちに告げ口なんかしない」

「だから、違うよ。誤解だ」

「いいって、もう。でもちよっとショックだったから、一晩頭冷やしてくる。莫迦なことはしないから、安心して」

頼むから、一人にしてほしい。重ねて頼むと、ひき留めようとしていた悠貴も承諾してくれた。

「財布を持って行きなさい。それと携帯電話も」

「いいよ、明日には戻ってくるし。大学にもちゃんと行くから」

それでも自分の携帯電話を押しつけてくる悠貴に、英実はおとなしく従った。家出するつもりではないというのを示そうと、黙々と明日使うテキストを鞆に放りこむ。

行く宛などないにしろ、とにかくひどく頭が混乱している。まずは気持ちをおちつけようと、英実の家を出た。

「……そっかあ……」

あれもこれも、すべて。悠貴のためだったのだ。悠貴と父親のために、弘明はなにくれとなく親切にしてくれていたのだ。

ようやく腑(ふ)に落ちたものの、とても気持ちが苦い。苦くて、心臓が鷲(わし)掴(づか)みされたように痛い。

——好きだった、のかな。

悠貴は、熱にひきずられたと言っていた。それでは自分は、どうだったんだろう。
少なくとも弘明からは「熱」など感じられなかったのに、今さら気づいてみれば、どうやら彼が好きだったらしい。

ふざけて揶揄われて、細かく気遣われて。そんなふうにいるうちに、気持ちが弘明に向いていたみたいだ。

見惚れるような端正な顔をした男に、ああまで優しくされてしまったから。ろくに免(めん)疫(えき)もない英実(えみ)は、包みこまれるようにのぼせてしまっていたのだ。

「はじめから、そう言ってくれればよかったのに」

そうすれば、こんな気持ちを抱えこまずにすんだ。今までどおり、恋愛(れんあい)になど興味(きょうみ)もないまま、バイト(ばいと)にいそしんで菅田(すがた)とふざけて、忙しいけれど平穩(へいへん)に、毎日がすごせていたのに。

これは、罰(ばつ)かもしれない。祖母(そぼ)を忘れて、あの人に惹(ひ)かれてしまったせいだ。

(ごめん、祖母ちゃん)

もう忘れるから、勘弁(かんべん)。一人(ひとり)ごちて、英実(えみ)はふらふらと町中(まちなか)を歩いた。

なにも知らないまま弘明(ひろみ)に告白(こっぴ)などしないですんだのが、せめてもの幸運(こうん)かもしれない。こうなると、しばらく顔をあわせなかったのも好都合(こうごう)だったのだと思う。

もしあのままひきずられていたら、うっかり好きだと告げていたかもしれない。ただ悠貴(ゆうき)の弟(てい)だというだけなのに熱(あつ)をあげられて、弘明(ひろみ)はきっと困(こ)っただろう。

(それとも、慣れてるかな)

自嘲(さちがう)する。一方的(ひかたかた)に好かれるのには慣れているだろう弘明(ひろみ)は、そういうときもソツ(そつ)のない対応(たいおう)をするのかもしれない。

誤解(ごかい)されると困(こ)るから女の子(おんなこ)には親切(せんせつ)にしない、と言っていたのに。よりによって男(おとこ)の自分(おのれ)まで、彼(かれ)に惹(ひ)かれてしまうなんて。

「おっかしーの」

声が湿(ぬ)っているのには、敢(あ)えて知らないふりをする。明日(あした)には普通の顔(かお)をしなきゃならない。でないと、悠貴(ゆうき)が心配(しんぱい)してしまうだろう。

「どこに行こうかなあ」

ファミレス(ファミレス)でもすごせばいい。とにかく一晩(ひとばん)で頭(かぶ)を冷(ひや)ささなければ。

英実(えみ)はひたすら歩きつづけた。

本文 p140～145 より抜粋

作品の詳細や最新情報はダリア公式サイト「ダリアカフェ」をご覧ください。

ダリア公式サイト「ダリアカフェ」

<http://www.fwinc.jp/daria/>